からだとは・病とは（45） 検査はほどほどに 鈴木斉観（せいかん）（斉観堂治療院院長）

毎週治療しているＡ子さんから電話があった。予約の日ではないが、腰痛で治療を受けたいと。これまで腰痛を訴えたことはなかった。特に原因らしいことはないと言う。前屈時にも後屈時にも痛い。先ず手かざしして診ると、左腰の背骨近くに縦に気が強く凝滞している。直接按じて筋が突っ張りを確認した。そこに鍼を刺して凝滞している気を放つ。最後に足首の外側、背部を流れる経絡にある崑崙というツボに鍼をかざして、背部の気を流す。突っ張っていた筋が緩んだのを確認した。

治療後、腰痛が治ってホッとしているＡ子さんと改めて、原因を探った。健康診断でバリウムを飲み、よく出なかったので、下剤をたくさん飲み、その翌日起きると、腰が痛くなっていたと言う。それで分かった。原因は下剤により腹中が虚し、それが腰に波及した為である。腰の筋肉に気が巡らなくなった為に突っ張ってしまったわけである。

腰の筋肉に過剰な負担がかかって、腰痛になると通常、思われているが、この場合の様に、特別な負担が無くてもなる。腰の筋肉も他の組織・臓器と同じ様に、気が流れることで働いているから、充分に気が流れなくなれば、本来の働きができず、その為に普段問題ない動作の負担でも耐えられなくなって突っ張ってしまう。

Ａ子さんの場合、下剤により腹中の気を虚させたという内的要因が大きかった。しかしこの内的要因は一時的なものだったので、この一回の治療によって治ってしまった。内的要因が慢性的である程、治りにくい。治っても、再発しやすい。

幸い、Ａ子さんの健康診断の結果に問題はなかった。問題があったのは検査の方である。お腹の働きを悪くし、腰痛を生じさせた。次の週に来た時に、今までにない胃痛を訴えていたが、これも検査のせいではないかと私は思っている。何回か腰痛治療したことあるお年寄りは、バリウムがうまく出ないで亡くなってしまっている。

私も検査には苦い思いをしている。若い頃、インドからの帰国後、半年近く、かなりの軟便が続いた。検便で異常がなく、精神安定剤のような薬を処方されていた。改善せず、注腸造影という検査を受けた。肛門からバリウムを注入され、大腸をＸ線撮影する。医師が、からだが固定されたベッドを動かし、大腸の様子を診る。催すのを長い間、がまんしなければならず、苦しい検査だった。何も発見されなかった。私は再度の検便をお願いした。べん虫という寄生虫が発見された。虫下しを飲み、軟便は治った。

鍼灸学校へ行く３年以上も前で、東洋医学への明確な関心はなかった時のことだが、西洋医学のあり方・実態を意識した。

現代では盛んに健康診断が勧められている。検便や検尿など排泄される物質を調べる様な検査ならともかく、多くの検査はからだに悪影響を与える。悪影響が少なくても、異常が見つかれば、対症療法的な薬で薬漬けにされ、反って医原病への道を歩むことになるのではないだろうか。気的に診たものが、物質的にどうなっているか、西洋医学的検査は教えてくれて、私たちには興味深いが、患者自身にはとっては、ほどほどにするのがよいのではないか。（2009 年 5 月小満）